

沖縄電力石川2号機運開

無事故・無災害で工事完了

〔石川＝7月1日〕沖縄県石川市字赤崎36番地に建設が進められていた沖縄電力株式会社石川火力発電所2号機は、6月9日官庁検査を終了し、営業運転に入った。

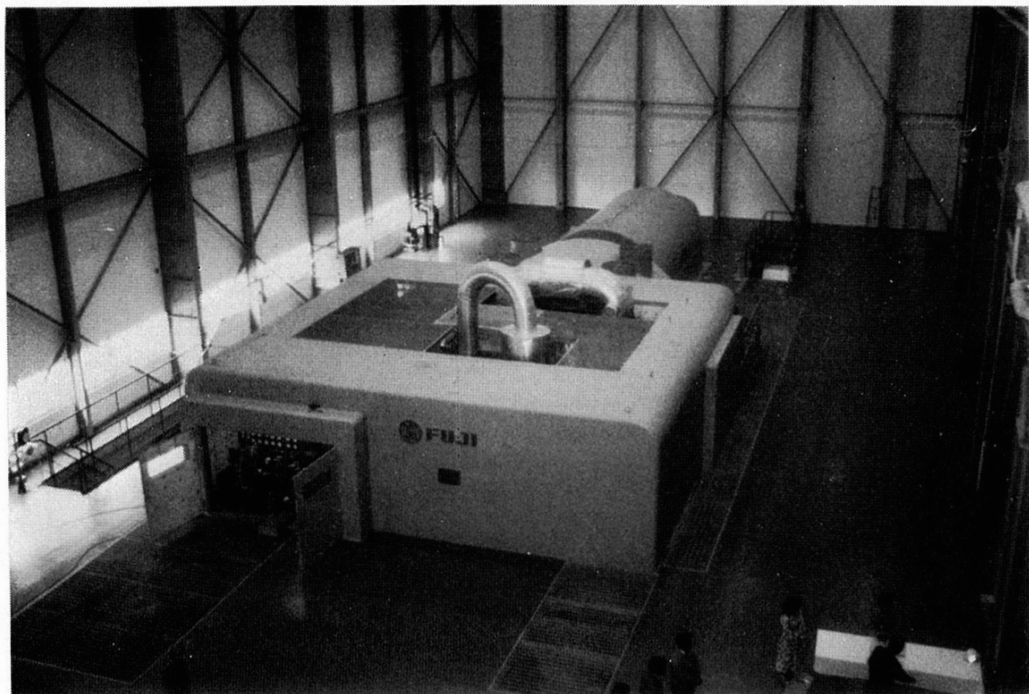
当社は石川2号機建設に関して、富士電機工事株式会社より出力12万5,000KWのタービン・発電機の据付および電気計装工事、ならびに付属設備の据付を受注し、51年11月から先行工事を開始、翌52年1月15日石川建設所を開設して本格的工事に入った。工事は三上峰太郎所長総指揮のもと、坂井要輔（電気担当）、浦川要（機械担当）両所長代理以下の技術陣、事務の佐藤哲二所長代理、それに柳田産業、三協電気工事などをはじめとする協力業者が一体とな

って取組み、52年10月10日ボイラ水圧、11月15日受電、12月9日中間検査、53年2月1日火入れと順調に工程を消化、3月24日には通気式を終え、以来試運転作業を進めてきた。そして6月7日から官庁検査が行われ、9日無事検査を終え営業運転を開始した。

当社が工事に入ってから約1年半の工期であったが、この間、昨年の夏は、南国沖縄の暑さ、視界2メートルの猛烈なスコール、それに沖縄でも近年めずらしいという極度の水不足による隔日給水制限などに苦しめられた。また、今年7月30日をもって沖縄は車両の通行が、従来の右側通行から本土と同じ左側通行に変更されるが、これにともない各地で

道路工事が行われ、交通渋滞が発生して機材の運搬に手間取るなどのアクシデントもあったが、全員が丸となって取組んだ結果、一人のケガ人、病人を“出す”こともなく、無事故、無災害で工事を完了した。

三上所長は「全員の意思疎通を図るということに留意してやってきたが、良い結果が得られたようだ。地元沖縄の業者もよくやってくれたし工事自体はやりやすかった。とにかく無事故、無災害を達成できたのは、みなが一体となって工事に当たってくれたおかげです。全員に感謝したい」と工事を振り返って感想を述べていた。



△ 営業運転を開始した石川2号タービン・発電機